

平和のための正統性構築  
需要に基づくアプローチ  
**LEGITIMACY-BUILDING FOR PEACE:  
A DEMAND-BASED APPROACH**

河本和美

- 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学研究所  
(国際関係論分科)「人間の安全保障」プログラム

目次

- はじめに: 先行研究
- 定義: 平和、平和構築、正統性
- ケース・スタディー:  
(シエラレオネ、リベリア、ソマリア、モザンビーク)
- 結論

はじめに

- 論文の背景  
冷戦終結: 国際紛争→国内紛争  
「平和構築」概念の登場。
- 論文の目的  
平和構築の成否を決定する要因を探す。  
→戦争決定要因を見つけること。  
例:  $f(x, y, z) = w$

はじめに

- 研究方法  
文献調査に基づくケース・スタディー。  
シエラレオネでのフィールド調査。



先行研究

- 戦争原因論
- 1. **資源の不足**: Kaplan[1994], Homer-Dixon[1994] etc.
- 2. **民族的憎悪**: Huntington[1996], Petersen[2002], Horowitz[1998] etc.
- 3. **民主主義の不在**: Zakaria[1997], Plattner[1998], etc.
- 4. **食欲さ**: Berdal and Malone[2000], Collier[2000], Keen[2000], Reno[1997] etc.

先行研究

- 平和構築論
- 1. **PKOの変遷**: “keeping”から“building” or “enforcement”へ。
- 2. **NGOの役割増大**: 人道支援と平和構築の矛盾。
- 3. **Security Sector Reform(SSR)**: 国家による「暴力独占」を回復。
- 4. **和解**: 分断された国家を再び一つに。

## 定義

### ○ 平和

“暴力の不在”[Galtung 1975]?

暴力が唯一の「正統性」を持っている＝平和  
正統性がダメージを受け、分断される＝戦争  
平和・戦争は正統性・暴力を軸として繋がる。

### ○ 平和構築

そうした正統性を再構築すること。

## 定義

### ○ 正統性

「自己保存欲求を満たしてくれる」という人々からの政府に対する信頼。

### ○ 正統性の3つの要素

1. 思想に基づく正統性(cf.民族・宗教)
  2. 手続きに基づく正統性(cf.民主主義)
  3. 需要に基づく正統性(cf.物質欲)
- 戦争の独立変数 $x, y, z$ としてみる。

## ケース・スタディー

- 独立変数 $x, y, z$ のどれが、2つの従属変数(戦争の対立構造・戦争開始時期)に最も関連しているかを調べる。



## <シエラレオネ内戦 1991~2002>

1.  $x$ =民族・宗教は多様
2.  $y$ =民主主義は1978年停止(1991年再開)
3.  $z$ =自己保存欲求が特に満たされなかったのは地域の.new参者。1980年代に経済状況は悪化。

→対立勢力は民族・宗教などで区切れないイデオロギー無き戦争。

## <リベリア内戦 1989-2003>

1.  $x$ =民族・宗教は多様
2.  $y$ =民主主義は1985年まで不在
3.  $z$ =自己保存欲求が満たされなかったのはギオ・マノ族など一部の民族。また1980年代に経済状況は悪化。

→紛争は民族色が強く、対立勢力も「民族」で大体区切られる。

## <ソマリア内戦 1980年代後半～>

1.  $x$ =民族・宗教は均一
2.  $y$ =民主主義は不在(2004年に暫定政府大統領選挙が行われるも、国内全土の参加は得られず)
3.  $z$ =自己保存欲求が満たされなかったのは政権に就いていなかった氏族。特に北方の氏族は周縁化。1980年代後半に経済悪化。

→紛争は氏族間で争われる。

### <ソマリランドの平和 1991~>

1.  $x$ =民族・宗教は均一
2.  $y$ =独立した1991年から選挙は安定して行われる。
3.  $z$ =自己保存欲求については、現在特に目立った排除対象はなし。また貿易の活発化や移民からの送金によって、経済状態は良好。

→平和の維持

### <モザンビーク内戦 1976~1992>

1.  $x$ =民族・宗教は多様
2.  $y$ =民主主義は整わないうち(独立から2年後)に戦争開始。
3.  $z$ =自己保存欲求が満たされなかったのは、北部地方、政府に弾圧された各種宗教団体、など様々。社会主義政策により独立後経済は低迷。

→紛争は民族・宗教では簡単に分けられない。また、隣国ローデシアの影響が大きい。

### 結論

- 独立変数 $x, y, z$ の中で、戦争の「対立構造」と「開始時期」の2つに最も関連していたのは $z$ (需要に基づく正統性)。
- 戦争の最大決定要因は、人々の物質的な自己保存欲求を満たせるかどうか。平和の実現には、この点に適切に対処すればよい。
- 既存国家だけが正統性享受者ではない。正統性の範囲は変わる。
- ただし、戦争が国外から「輸入」される場合は、限定的な説明となる。

THANK YOU!!

